

「主を知っていることのすばらしさ」

ピリピ3：1－8前半

堀田修一 21・1・16

I 「最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい」：1。どんな時も共におられる主ご自身を、そして主の救いを喜びなさい。※もし私が主の救いを受けていなければ？主が共におられない？獄中にあるパウロの言葉には、説得力がある。パウロは、獄中にいても不平に支配される事無く主の恵みを数え主に感謝し主を喜び主を賛美していた。パウロは、死を迎えても、天国で主とともにいる恵み、主を崇める天での礼拝（地上にある教会と天にいる神の民の集まりの教会は一つ。地での礼拝と天での礼拝は、主の体なる教会の礼拝として御聖霊により繋がっている）に参加できることを最高の喜びと自覚していた。

II 「犬どもに気をつけてなさい」：2。

1. 犬とは、2節の次の言葉で分かる。昔も今も同じ。

- ①「悪い働き人たちに気をつけなさい」。悪い働き人とは、人を真の救いに至らせない働きをする人。間違った教えを説き回り、主の為にではなく、自分の栄光の為に働いている人。
- ②「肉体だけの割礼の者」。ただ肉体的、形式的に割礼を受けているだけで、心が神により新しくされていないユダヤ主義者。キリストが救いを完成され、このキリストを主と信じるなら救われるのに、ユダヤ主義者は、割礼を受けないなら救われないと教えた。

2. 真の割礼者とは＝

- ①心に御聖霊により新生という霊的な割礼を受け救われている者。私達への恵み。
- ②「神の御霊によって礼拝を」する者。3節。心に神である聖霊をいただき、主を信じ、新しく生まれ、御聖霊により罪を示され、神に告白し赦され聖くされ、御霊によって心から神を賛美し、御霊によって心から御言葉を聞き、御霊によって御言葉を理解し教えられ、御霊によって心で決めた通りに喜んで捧げものをし、自分自身を神にささげる真実な礼拝をする者。私達は、このような礼拝者に変えられ続けている事を感謝したい。
- ③「キリスト・イエスを誇り」。自分の生まれや自分の行いや自分の力を誇ることなく、主御自身のみを誇る（原語：誇る、自慢する。名詞：賛辞。ローマ5：1、11では「大いに喜ぶ」と訳されている）。主ご自身を誇りに思い、大いに喜ぶ。主は、それにふさわしい方！④「人間的なもの（直訳：肉）を頼みにしない」。肉体に割礼を受けていることを頼みにしない。私達の頼みは、主と主の十字架（私達の罪の完全な償いの成就）以外にはない。「私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません」（ガラテヤ6：14）。主は、私達を決して見捨てられず、頼みとできる素晴らしいお方。

Ⅲ パウロが主に出会う以前、頼みとした人間的なもの：4-6。

1. 「八日目の割礼を受け」：5。きっすいのユダヤ人であることを示す。
2. 「イスラエル民族」：5。神が選ばれた民族、神の契約の民に属する。※神がイスラエルを選ばれたのは、彼らを誇らせる為ではなく、彼らが全世界の人々に神を証しするためだった。イスラエル民族から生まれる救い主キリストが、イスラエル民族の為だけではなく、すべての国の人々の救いの為に十字架で死なれ復活される事が神の御計画だった。
3. 「ベニヤミン部族の出身」。ベニヤミン族は、主要な部族の一つ。
4. 「ヘブル人の中のヘブル人」。母国語であるヘブル語（使徒22：2）を話すヘブル人。
5. 「律法についてはパリサイ人」：5。ユダヤ人の間でも、最も敬虔で厳しい派に入っていた。
6. 「その熱心は教会を迫害したほど」：6。彼の熱心は、ナザレ派と呼ばれたキリスト者を憎み、迫害するという形で表された。パウロは、主と出会う前は別のキリスト、救い主が来られると信じていた。
7. 「律法による義についてならば非難されるところがない者」：6。ユダヤ教の人々は、神の律法
の精神ではなく、文字、外側に捕われ、心を見られる神の目ではなく、人の目に立派なら非難
されなかった。しかし、神は、心を見られる。聖なる神がご覧になっても、心に汚れや悪い心
がない人は、一人もいない（ローマ7：7）。律法を完璧に行い神の前に義と認められる人は
一人もいない。

Ⅳ キリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえの価値判断の大転換：7-8。

1. 「しかし私は、自分にとって得（原語：利益）であったこのようなもの（人がうらやみ人に誇
れるもの）をみな、私はキリストのゆえに、損（原語：損失、損害、不利益）と思う（原語：
思う、見なす）ようになりました」：7。パウロは主と出会い、価値判断の転換を経験し、現
在にもその影響が及んでいる。価値判断の転換の動機、理由は→「キリストのゆえに」。素晴
らしい主と出会い、主によって変えられ続けている故に。
2. 「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、す
べてを損（世的に価値があると思われるでも自分を主から引き離すものなら損）と思っています。
私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくだ（原語：廃物、汚物、糞）
だと考えています」：8。彼がダマスコ途上で主と出会い救われ（i 永遠のいのち ii 天国に行
ける iii 新生 iv 罪の赦し v 贖い vi 信仰による義認 vii 神の子どもとされる驚くべき恵みを受け。
AD31-33年）、約30年経った今（ピリピの執筆：AD61年頃）、ますます主の素晴ら
しさを知り続け、世的に価値のあるものとされたものが色あせたものになって来た。大切な点
は、パウロが無理をしてこう言っているのではなく、本音で心から言っている事→「私の主で
あるキリスト・イエスを知っている（ただに知識ではなく深く主を知り続けている）ことのす
ばらしさ（原語：すべてに優る偉大さ、この上ない優秀さ、尊さ）のゆえに」：8。パウロは、
主に出会って、約30年間、ますます主を深く知り続け、その素晴らしさに感動していた。私
達は？もし私達が主を知らなかったら？ここまでの人生は？主の愛、恵み、力なしの罪の奴隷
のままの人生なら？主の救いを感謝！パウロは、主の素晴らしさを知り続けたので、心から主
を伝えた。
3. 何を通して主の素晴らしさを知り続ける→①御言葉を味わう。②正直な祈り。深い霊的人格的
な交わり。静まり。③非常に苦しい経験の中でそこに共におられる主、背負って下さる主を深
く体験する。「彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、御自身の使いが彼らを救った。…
昔からずっと、彼らを背負い、抱いて来られた」イザ63：9。主に自分の弱さをありのまま

打ち明け、心の重荷を主の前に降ろす。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」マタイ11：28。ある時は人を通しての慰め助け。証し。④祈りつつ福音を伝える続ける中で人々を救われる主。証し。⑤心から祈り合う中で生きて働かれる主。⑥主の恵みに感謝し主を賛美する礼拝の中に臨在される主。

V 恵み深い神への私達の応答。

1. 父、子、聖霊なる三位一体の神を深く知り続ける（永遠のいのち）。「永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ること（原語：知り続けるの意）です」ヨハネ17：3
2. 神の栄光（御性質、素晴らしさ）を現わし、神が最も喜ばれる礼拝を捧げる。
3. 主の素晴らしさ、主の福音の素晴らしさを知り続け、主を人々に伝え続ける事ができますように。